

パッケージ区分	集中治療領域	時間	76
研修概要	呼吸器（気道確保に係るもの）関連 (A) 経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整	医師の指示の下、手順書により、身体所見（呼吸音、一回換気量、胸部の上り等）及び検査結果（経皮的動脈血酸素飽和度（SpO2）、レントゲン所見等）等が医師から指示された病状の範囲内にあることを確認し、適切な部位に位置するように、経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの深さの調整を行う。	
	呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連 (A) 侵襲的陽圧換気の設定の変更	医師の指示の下、手順書により身体所見（人工呼吸器との同調、一回換気量、意識レベル等）及び検査結果（動脈血液ガス分析、経皮的動脈血酸素飽和度（SpO2）等）が医師から指示された病状の範囲内にあることを確認し酸素濃度や換気様式、呼吸回数、一回換気量等の人工呼吸器の設定条件を変更する。	
	呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連 (C) 人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整	医師の指示の下、手順書により、身体所見（睡眠や覚醒のリズム、呼吸状態、人工呼吸器との同調等）及び検査結果（動脈血液ガス分析、経皮的動脈血酸素飽和度（SpO2）等）等が医師から指示された病状の範囲内にあることを確認し、鎮静薬の投与量の調整を行う。	
	呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連 (D) 人工呼吸器からの離脱	医師の指示の下、手順書により、身体所見（呼吸状態、一回換気量、努力呼吸の有無、意識レベル等）、検査結果（動脈血液ガス分析、経皮的動脈血酸素飽和度（SpO2）等）及び血行動態が医師から指示された病状の範囲内にあることを確認し、人工呼吸器からの離脱（ウィーニング）を行う。	
	循環器関連 (A) 一時的ペースメーカの操作及び管理	医師の指示の下、手順書により、身体所見（血圧、自脈とペースングとの調和、動悸の有無、めまい、呼吸困難感等）及び検査結果（心電図モニター所見等）等が医師から指示された病状の範囲内にあることを確認し、ペースメーカの操作及び管理を行う。	
	栄養に係るカテーテル管理（中心静脈カテーテル管理）関連 (A) 中心静脈カテーテルの抜去	医師の指示の下、手順書により、身体所見（発熱の有無、食事摂取量等）及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲内にあることを確認し、中心静脈内に挿入されているカテーテルを引き抜き、止血するとともに、全長が抜去されたことを確認する。抜去部は、縫合、結紮閉鎖又は閉塞性ドレッシング剤の貼付を行う。縫合糸で固定されている場合は抜糸を行う。	
	動脈血液ガス分析関連 (B) 橈骨動脈ラインの確保	医師の指示の下、手順書により、身体所見（呼吸状態、努力呼吸の有無、チアノーゼ等）及び検査結果（動脈血液ガス分析、経皮的動脈血酸素飽和度（SpO2）等）等が医師から指示された病状の範囲内にあることを確認し、経皮的に橈骨動脈から穿刺し、内套針に動脈血の逆流を確認後に針を進め、最終的に外套のカニューレのみを動脈内に押し進め留置する。	
	循環動態に係る薬剤投与関連 (A) 持続点滴中のカテコラミンの投与量の調整	医師の指示の下、手順書により、身体所見（動悸の有無、尿量、血圧等）、血行動態及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲内にあることを確認し、持続点滴中のカテコラミン（注射薬）の投与量の調整を行う。	
	循環動態に係る薬剤投与関連 (B) 持続点滴中のナトリウム、カリウム又はクロールの投与量の調整	医師の指示の下、手順書により、身体所見（口渇や倦怠感の程度、不整脈の有無、尿量等）及び検査結果（電解質、酸塩基平衡等）等が医師から指示された病状の範囲内にあることを確認し、持続点滴中のナトリウム、カリウム又はクロール（注射薬）の投与量の調整を行う。	
循環動態に係る薬剤投与関連 (C) 持続点滴中の降圧剤の投与量の調整	医師の指示の下、手順書により、身体所見（意識レベル、尿量の変化、血圧等）及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲内であることを確認し、持続点滴中の降圧剤（注射薬）の投与量の調整を行う。		
到達目標	1. 医師の指示の下、手順書により、医療面接、身体所見及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲内にあることを確認し、集中治療領域の特定行為ができるようになる。		
	2. 手順書案を作成し、再評価、修正できる能力を養う。		
	3. 医師、歯科医師から手順書による指示を受け、実施の可否を判断するために必要な知識を養う。		
	4. 実施、報告の一連の流れが適切に行える。		
評価方法	講義：eラーニングの受講及び講義確認テスト		
	演習：ペーパーシミュレーションによる演習		
	OSCE：評価表（mini-CEX）を用いた観察評価		
	試験：eラーニング上もしくは集会で実施		
研修内訳	講義（66時間）	視聴時間45分＋講義確認テスト15分	
	演習（10時間）	視聴時間（イントロ）5分＋グループワーク45分＋視聴時間（解説）10分 ※演習はeラーニング教材を活用して指定研修機関で行う	
	OSCE（2時間）	OSCEはシラバスの時間に含めておりませんが、教材としてご利用ください	
	試験（任意）	試験は指定研修機関ごとに時間・設問数など設定してご利用ください	

学ぶべき事項		講師	所属	研修方法	通番
呼吸器（気道確保に係るもの）関連 （共通）呼吸器（気道確保に係るもの）関連の基礎知識	気道確保に関する局所解剖、経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整に関する病態生理	薬師寺 泰匡	岸和田徳洲会病院救命救急センター医長	講義	1-1
	経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整に関するフィジカルアセスメント	薬師寺 泰匡	岸和田徳洲会病院救命救急センター医長	講義	1-2
	経口又は経鼻気管挿管の目的、適応と禁忌、経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの種類と適応	近藤 夏樹	亀田総合病院 集中治療科	講義	1-3
	経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブによる呼吸管理、バックバルブマスク（BVM）を用いた手換気	川原 加苗	福岡徳洲会病院 救急総合診療部	講義	1-4

呼吸器（気道確保に係るもの）関連 (A) 経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整	経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整の目的	鈴木 慧太郎	岸和田徳洲会病院 救命救急センター	講義	1-5
	経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整の適応と禁忌	薬師寺 泰匡	岸和田徳洲会病院救命救急センター医長	講義	1-6
	経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整に伴うリスク（有害事象とその対策等）	鈴木 慧太郎	岸和田徳洲会病院 救命救急センター	講義	1-7
	経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整の手技（1）	鈴木 慧太郎	岸和田徳洲会病院 救命救急センター	講義	1-8
	経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整の手技（2）	山口 重樹	獨協医科大学医学部 麻酔科学講座	講義	1-9
呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連 (共通) 呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連の基礎知識	人工呼吸療法の目的、適応、禁忌	薬師寺 泰匡	岸和田徳洲会病院救命救急センター医長	講義	2-1
	人工呼吸療法に関する局所解剖、人工呼吸療法を要する主要疾患のフィジカルアセスメント	薬師寺 泰匡	岸和田徳洲会病院救命救急センター医長	講義	2-2
	人工呼吸療法を要する主要疾患の病態生理	薬師寺 泰匡	岸和田徳洲会病院救命救急センター医長	講義	2-3
	人工呼吸器管理の適応と禁忌	川原 加苗	福岡徳洲会病院 救急総合診療部	講義	2-4
	人工呼吸器のメカニズム（構造と種類）	川原 加苗	福岡徳洲会病院 救急総合診療部	講義	2-5
呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連 (A) 侵襲的陽圧換気の設定の変更	侵襲的陽圧換気の設定の目的、選択と適応	鈴木 慧太郎	岸和田徳洲会病院救命救急センター	講義	2-6
	侵襲的陽圧換気の設定条件の変更の適応と禁忌	鈴木 慧太郎	岸和田徳洲会病院救命救急センター	講義	2-7
	侵襲的陽圧換気の設定条件の変更に伴うリスク（有害事象とその対策等）	鈴木 慧太郎	岸和田徳洲会病院救命救急センター	講義	2-8
	侵襲的陽圧換気の設定条件の変更方法	鈴木 慧太郎	岸和田徳洲会病院救命救急センター	講義	2-9
	侵襲的陽圧換気の設定の変更（ペーパーベシエント）（1）	薬師寺 泰匡	岸和田徳洲会病院救命救急センター医長	演習	2-10
	侵襲的陽圧換気の設定の変更（ペーパーベシエント）（2）	薬師寺 泰匡	岸和田徳洲会病院救命救急センター医長	演習	2-11
呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連 (C) 人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整	人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静の目的	鈴木 慧太郎	岸和田徳洲会病院救命救急センター	講義	2-18
	人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静の適応と禁忌	薬師寺 泰匡	岸和田徳洲会病院救命救急センター医長	講義	2-19
	人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静に伴うリスク（有害事象とその対策等）	薬師寺 泰匡	岸和田徳洲会病院救命救急センター医長	講義	2-20
	人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の選択と投与量、鎮静の方法	薬師寺 泰匡	岸和田徳洲会病院救命救急センター医長	講義	2-21
	人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整（ペーパーベシエント）（1）	薬師寺 泰匡	岸和田徳洲会病院救命救急センター医長	演習	2-22
	人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整（ペーパーベシエント）（2）	薬師寺 泰匡	岸和田徳洲会病院救命救急センター医長	演習	2-23
呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連 (D) 人工呼吸器からの離脱	人工呼吸器からの離脱の目的	薬師寺 泰匡	岸和田徳洲会病院救命救急センター医長	講義	2-24
	人工呼吸器からの離脱の適応と禁忌	薬師寺 泰匡	岸和田徳洲会病院救命救急センター医長	講義	2-25
	人工呼吸器からの離脱に伴うリスク（有害事象とその対策等）	薬師寺 泰匡	岸和田徳洲会病院救命救急センター医長	講義	2-26
	人工呼吸器からの離脱の方法	薬師寺 泰匡	岸和田徳洲会病院救命救急センター医長	講義	2-27
	人工呼吸器からの離脱（ペーパーベシエント）（1）	薬師寺 泰匡	岸和田徳洲会病院救命救急センター医長	演習	2-28
	人工呼吸器からの離脱（ペーパーベシエント）（2）	薬師寺 泰匡	岸和田徳洲会病院救命救急センター医長	演習	2-29

(共通) 循環器関連の基礎知識	経皮的心肺補助装置、大動脈内バルーンパンピングに関する局所解剖	小山 寛介	自治医科大学 麻酔科学・集中治療医学講座 集中治療医学部門 准教授	講義	4-1
	経皮的心肺補助装置、大動脈内バルーンパンピングを要する主要疾患の病態生理、フィジカルアセスメント	小山 寛介	自治医科大学 麻酔科学・集中治療医学講座 集中治療医学部門 准教授	講義	4-2
	一時的ペースメーカに関する局所解剖	小山 寛介	自治医科大学 麻酔科学・集中治療医学講座 集中治療医学部門 准教授	講義	4-3
	一時的ペースメーカを要する主要疾患の病態生理、フィジカルアセスメント	小山 寛介	自治医科大学 麻酔科学・集中治療医学講座 集中治療医学部門 准教授	講義	4-4
(A) 一時的ペースメーカの操作及び管理	一時的ペースメーカの目的、適応と禁忌、患者・家族への指導及び教育	永田 吾一	東海大学医学部付属病院 臨床工学技士	講義	4-5
	ペースメーカの種類とメカニズム、一時的ペースメーカの操作及び管理方法	永田 吾一	東海大学医学部付属病院 臨床工学技士	講義	4-6
	ペースメーカのモードの選択と適応、一時的ペースメーカに伴うリスク(有害事象とその対策等)	永田 吾一	東海大学医学部付属病院 臨床工学技士	講義	4-7
	一時的ペースメーカの操作及び管理方法(ペーパーシミュレーション)	永田 吾一	東海大学医学部付属病院 臨床工学技士	演習	4-8
(共通) 中心静脈カテーテル管理の基礎知識	中心静脈カテーテルに関する局所解剖 中心静脈カテーテルを要する主要疾患の病態生理、フィジカルアセスメント、目的(1)	千葉 義郎 青柳 智和	水戸済生会総合病院 循環器内科部長/総合内科部長 水戸済生会総合病院 看護師特定行為研修責任者/総合内科所属診療看護師	講義	9-1
	中心静脈カテーテルを要する主要疾患の病態生理、フィジカルアセスメント、目的(2)	千葉 義郎 青柳 智和	水戸済生会総合病院 循環器内科部長/総合内科部長 水戸済生会総合病院 看護師特定行為研修責任者/総合内科所属診療看護師	講義	9-2
	中心静脈カテーテルの適応と禁忌、伴うリスク(有害事象とその対策等)	千葉 義郎 青柳 智和	水戸済生会総合病院 循環器内科部長/総合内科部長 水戸済生会総合病院 看護師特定行為研修責任者/総合内科所属診療看護師	講義	9-3
(A) 中心静脈カテーテルの抜去	中心静脈カテーテルの抜去の適応と禁忌	千葉 義郎 青柳 智和	水戸済生会総合病院 循環器内科部長/総合内科部長 水戸済生会総合病院 看護師特定行為研修責任者/総合内科所属診療看護師	講義	9-4
	中心静脈カテーテルの抜去に伴うリスク(有害事象とその対策等)	千葉 義郎 青柳 智和	水戸済生会総合病院 循環器内科部長/総合内科部長 水戸済生会総合病院 看護師特定行為研修責任者/総合内科所属診療看護師	講義	9-5
	中心静脈カテーテルの抜去の方法と手技(1)	千葉 義郎 青柳 智和	水戸済生会総合病院 循環器内科部長/総合内科部長 水戸済生会総合病院 看護師特定行為研修責任者/総合内科所属診療看護師	講義	9-6
	中心静脈カテーテルの抜去の方法と手技(2)	千葉 義郎 青柳 智和	水戸済生会総合病院 循環器内科部長/総合内科部長 水戸済生会総合病院 看護師特定行為研修責任者/総合内科所属診療看護師	講義	9-7
(共通) 動脈血液ガス分析関連の基礎知識	動脈穿刺法に関する局所解剖、フィジカルアセスメント	薬師寺 泰匡	岸和田徳洲会病院救命救急センター医長	講義	13-1
	超音波検査による動脈と静脈の見分け方	薬師寺 泰匡	岸和田徳洲会病院救命救急センター医長	講義	13-2
	動脈血採取が必要となる検査	薬師寺 泰匡	岸和田徳洲会病院救命救急センター医長	講義	13-3
	動脈血液ガス分析が必要となる主要疾患とその病態(1)	川原 加苗	福岡徳洲会病院 救急総合診療部	講義	13-4
	動脈血液ガス分析が必要となる主要疾患とその病態(2)	川原 加苗	福岡徳洲会病院 救急総合診療部	講義	13-5
(B) 橈骨動脈ラインの確保	動脈ラインの確保の目的、適応と禁忌	近藤 夏樹	亀田総合病院 集中治療科	講義	13-10
	穿刺部位と穿刺及び留置に伴うリスク(有害事象とその対策等)	近藤 夏樹	亀田総合病院 集中治療科	講義	13-11
	患者に適した穿刺及び留置部位の選択	近藤 夏樹	亀田総合病院 集中治療科	講義	13-12
	橈骨動脈ラインの確保の手技	薬師寺 泰匡	薬師寺慈恵病院副院長	講義	13-13

循環動態に係る薬剤投与関連 (共通) 循環動態に係る薬剤投与関連の基礎知識	循環動態に関する局所解剖	石黒 晴久	医療法人広正会 井上病院 理事長・循環器内科医師	講義	19-1
	循環動態に関する主要症候	弦切 純也	東京医科大学病院八王子医療センター救命救急部	講義	19-2
	循環動態の薬物療法を必要とする主要疾患の病態生理	弦切 純也	東京医科大学病院八王子医療センター救命救急部	講義	19-3
	循環動態の薬物療法を必要とする主要疾患のフィジカルアセスメント	弦切 純也	東京医科大学病院八王子医療センター救命救急部	講義	19-4
	輸液療法の目的と種類	廣瀬 剛	東京医科大学八王子医療センター 腎臓内科	講義	19-5
	病態に応じた輸液療法の適応と禁忌	廣瀬 剛	東京医科大学八王子医療センター 腎臓内科	講義	19-6
	輸液時に必要な検査	廣瀬 剛	東京医科大学八王子医療センター 腎臓内科	講義	19-7
	輸液療法の計画	廣瀬 剛	東京医科大学八王子医療センター 腎臓内科	講義	19-8
循環動態に係る薬剤投与関連 (A) 持続点滴中のカテコラミンの投与量の調整	カテコラミン製剤の種類と臨床薬理	大島 一太	大島医院 院長/東京医科大学八王子医療センター循環器内科 兼任講師/日本看護協会看護研修学校 非常勤講師	講義	19-9
	各種カテコラミン製剤の適応と使用方法	大島 一太	大島医院 院長/東京医科大学八王子医療センター循環器内科 兼任講師/日本看護協会看護研修学校 非常勤講師	講義	19-10
	各種カテコラミン製剤の副作用、持続点滴中のカテコラミン投与量の調整のリスク (有害事象とその対策等)	大島 一太	大島医院 院長/東京医科大学八王子医療センター循環器内科 兼任講師/日本看護協会看護研修学校 非常勤講師	講義	19-11
	病態に応じたカテコラミンの投与量の調整の判断基準 (ペーパーシミュレーションを含む)	大島 一太	大島医院 院長/東京医科大学八王子医療センター循環器内科 兼任講師/日本看護協会看護研修学校 非常勤講師	演習	19-12
循環動態に係る薬剤投与関連 (B) 持続点滴中のナトリウム、カリウム又はクロールの投与量の調整	持続点滴によるナトリウムの投与の臨床薬理、適応と使用方法、副作用、投与量の調整のリスク (有害事象とその対策等)	富安 朋宏	東京医科大学八王子医療センター副医局長/腎臓内科 助教	講義	19-13
	持続点滴によるカリウムの投与の臨床薬理、適応と使用方法、副作用、投与量の調整のリスク (有害事象とその対策等)	富安 朋宏	東京医科大学八王子医療センター副医局長/腎臓内科 助教	講義	19-14
	持続点滴によるクロールの投与の臨床薬理、適応と使用方法、副作用、投与量の調整のリスク (有害事象とその対策等)	富安 朋宏	東京医科大学八王子医療センター副医局長/腎臓内科 助教	講義	19-15
	病態に応じた持続点滴によるナトリウム、カリウム又はクロールの投与の調整の判断基準 (ペーパーシミュレーションを含む)	富安 朋宏	東京医科大学八王子医療センター副医局長/腎臓内科 助教	演習	19-16
循環動態に係る薬剤投与関連 (C) 持続点滴中の降圧剤の投与量の調整	降圧剤の種類と臨床薬理	大島 一太	大島医院 院長/東京医科大学八王子医療センター循環器内科 兼任講師/日本看護協会看護研修学校 非常勤講師	講義	19-17
	各種降圧剤の適応と使用方法	大島 一太	大島医院 院長/東京医科大学八王子医療センター循環器内科 兼任講師/日本看護協会看護研修学校 非常勤講師	講義	19-18
	各種降圧剤の副作用、持続点滴中の降圧剤の投与量の調整のリスク (有害事象とその対策等)	大島 一太	大島医院 院長/東京医科大学八王子医療センター循環器内科 兼任講師/日本看護協会看護研修学校 非常勤講師	講義	19-19
	病態に応じた降圧剤の投与量の調整の判断基準 (ペーパーシミュレーションを含む)	大島 一太	大島医院 院長/東京医科大学八王子医療センター循環器内科 兼任講師/日本看護協会看護研修学校 非常勤講師	演習	19-20
呼吸器 (気道) (A)	経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整	鈴木 慧太郎	岸和田徳洲会病院 救命救急センター	OSCE	-
血ガス分析 (B)	橈骨動脈ラインの確保の手技	近藤 夏樹	亀田総合病院 集中治療科	OSCE	-
集中治療領域 修了試験				試験	-